

船舶事故調査報告書

平成25年3月21日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年11月6日 08時10分ごろ
発生場所	山口県徳山下松港第1区 山口県周南市所在の黒髪島二等三角点から真方位020° 2.5海里（M）付近 （概位 北緯34° 04.1′ 東経131° 45.1′）
事故調査の経過	平成24年11月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	液体化学薬品ばら積船 第八 ^{こうふく} 幸福丸、191トン 129532、コーウン・マリン株式会社 44.21m×8.00m×3.20m、鋼 ディーゼル機関、441kW、昭和61年11月
乗組員等に関する情報	船長 男性 47歳 四級海技士（航海） 免許年月日 平成3年9月26日 免状交付年月日 平成23年10月25日 免状有効期間満了日 平成28年10月24日
死傷者等	なし
損傷	船底塗装一部剝離、プロペラ翼に曲損
事故の経過	<p>本船は、船長ほか3人が乗り組み、空船で船首約0.6m、船尾約2.7mの喫水により、徳山下松港第1区平野ふ頭に着岸しようとしたところ、着岸予定場所付近に貨物船が着岸しており、その貨物船から投入されていた錨鎖を認めたので、その錨鎖を避けるために平野ふ頭前面水域東側を航行することとし、約4ノットの対地速力で手動操舵により北東進した。</p> <p>平野ふ頭は周南市港町に所在する南北に延びた長さ約600mのふ頭であり、同ふ頭と同市小川屋町に所在するふ頭に挟まれた水域は、南西方に開いており、水域の東側（小川屋町のふ頭側）は干出岩や浅所が存在し、可航幅は100m未満であった。また、干出岩が存在する辺りは、水深が2m未満であり、浅いことを示す赤色浮きが1個設置されていた。</p>

	<p>船長は、赤色浮きが設置された辺りが浅いことを知っていたが、低潮時から約1～2時間経ち、また、空船であったので、水深は大丈夫であるものと思い、赤色浮き付近に向けて航行し、平成24年11月6日08時10分ごろ、黒髪島二等三角点から真方位020° 2.5M付近において、浅所に乗り揚げた。</p> <p>船長は、船舶所有者及び海上保安庁に連絡し、本船は、高潮時を待つて自力で離礁して着岸予定場所に着岸した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好</p> <p>海象：波 なし、潮汐 上げ潮の初期、潮高 約1.1m</p>
その他の事項	<p>船長は、本事故発生場所付近を3回出入航していた。</p> <p>本事故発生当時には、干出岩は海面下であった。</p> <p>船長は、出航前に海図などにより本事故発生場所付近の正確な水深を把握していなかった。また、航行中にGPSプロッターなどにより水深を確認していなかった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、徳山下松港第1区平野ふ頭前面水域を北東進中、船長が、赤色浮きが設置された辺りが浅いことを知っていたが、低潮時から約1～2時間経ち、また、空船であったので、水深は確保されているものと思ひ込み、浅所を示す赤色浮き付近に向けて航行したことから、浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、徳山下松港第1区平野ふ頭前面水域を北東進中、船長が浅所を示す赤色浮き付近に向けて航行したため、浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>船長は、本事故後、次の改善措置を採った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出航前、海図や潮汐表により水深、浅所及び潮高などを調査し、安全な水域を航行すること。